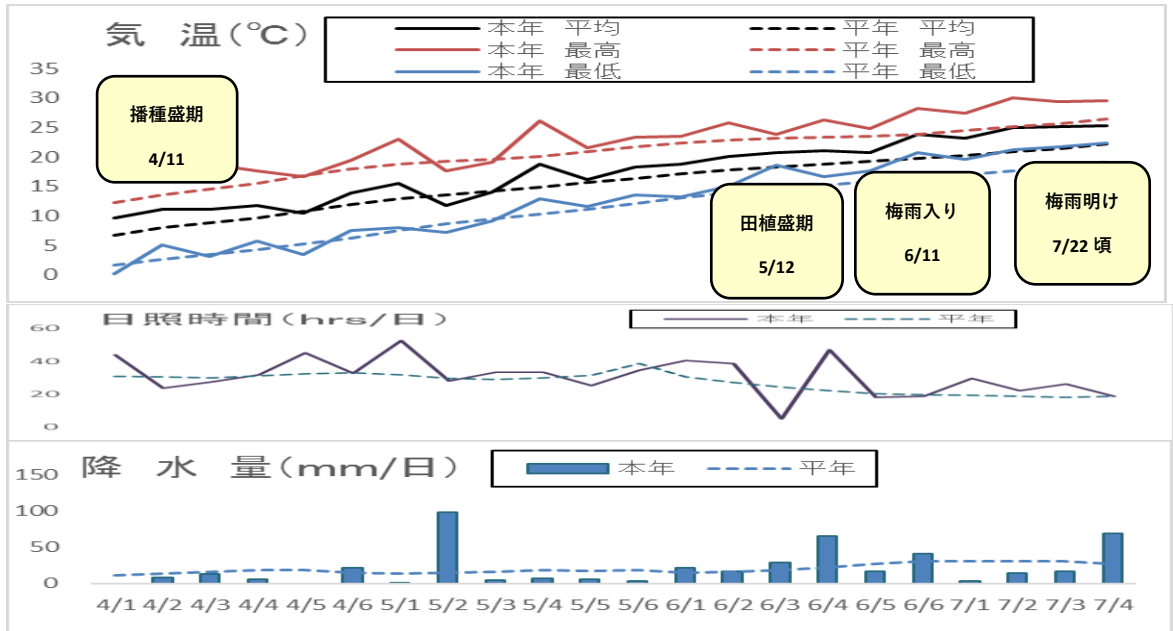


～生育ステージは早く 「ひとめぼれ」はまもなく出穂期に～

～草地で斑点米カメムシ類が多発！ 適期防除に努めよう！～

1 令和5年の気象(古川アメダス)



◆7/20 発表 東北地方の1か月予報(7/22～8/21 までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率70%、平年並みの確率20%、低い確率10%。
- ・降水量は、平年並みの確率40%、多い若しくは少ない確率30%。
- ・日照時間は、平年並みの確率40%、多い若しくは少ない確率30%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北日本海側	向こう1か月 07/22～08/21	10 (低) 30 (平) 60 (高)
		1週目 07/22～07/28	10 (低) 20 (平) 70 (高)
		2週目 07/29～08/04	20 (低) 30 (平) 50 (高)
		3～4週目 08/05～08/18	20 (低) 40 (平) 40 (高)
	東北太平洋側	向こう1か月 07/22～08/21	10 (低) 20 (平) 70 (高)
		1週目 07/22～07/28	10 (低) 20 (平) 70 (高)
		2週目 07/29～08/04	10 (低) 30 (平) 60 (高)
		3～4週目 08/05～08/18	20 (低) 40 (平) 40 (高)
降水量	東北地方	向こう1か月 07/22～08/21	30 (多) 40 (平) 30 (少)
日照時間	東北地方	向こう1か月 07/22～08/21	30 (多) 40 (平) 30 (少)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況【令和5年度 宮城県米づくり推進本部情報 第1号より一部抜粋】

(1) 生育調査ほ「ひとめぼれ」生育状況（6/1～7/10，下図）

- ・草丈（左上）は6月20日以降，平年より長めに推移している。
- ・茎数（右上）は6月10日以降，平年より少なめに推移している。
- ・葉数（左下）は6月10日以降，平年より早めに推移している。
- ・葉色（右下）は6月20日には平年より高かったが，7月1日以降は平年より低めに推移している。

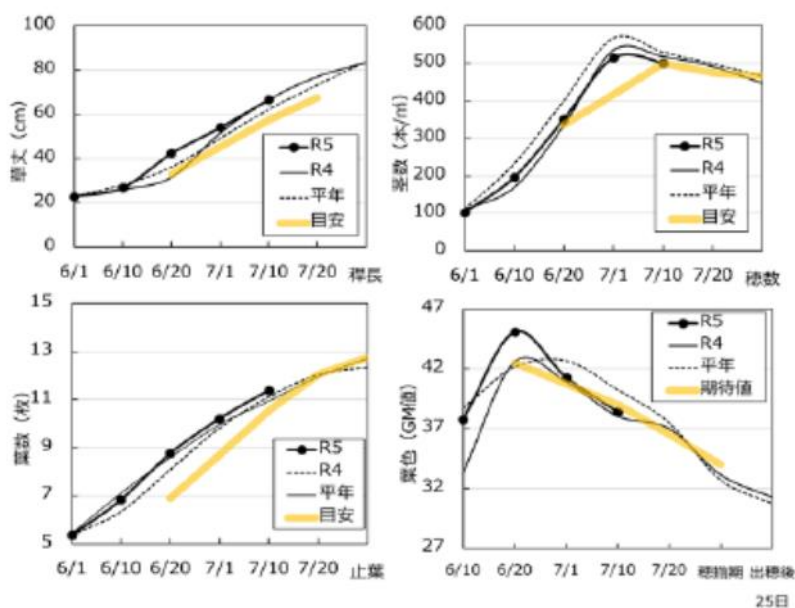


図1 生育調査ほ「ひとめぼれ」生育状況(左上:草丈、右上:茎数、左下:葉数、右下:葉色)
※平年値は最近5か年(平成30年～令和4年)の平均値

(2) 【参考】品種別生育ステージ（7月20日現在，県水稻生育調査ほ）

- ・ひとめぼれ 幼穂形成期=7/4（平年差-4日），減数分裂期=7/16（平年差-3日）
- ・ササニシキ 幼穂形成期=7/7（平年差-2日），減数分裂期=7/17（平年差-3日）

(3) 【参考】幼穂の生育状況（7月20日現在，A農協生育調査結果より）

- ・ひとめぼれ：1.1～16mm（移植日：5/2～5/18）
- ・ササニシキ：4.7～21mm（移植日：5/1～5/14）
- ・だて正夢：1.1～16mm（移植日：5/5～5/18）
- ・つや姫：0.2～1.3mm（移植日：4/29～5/16）
- ・金のいぶき：0.6mm（移植日：5/16）

(4) 出穂予想

- ・今後の天候が平年並みで推移すると仮定すると，「ひとめぼれ」等の中生品種の出穂期は，平年より早い7月26日～31日頃と見込まれる。
- ・今後の天候によって，生育ステージは変動することがあるので，ほ場で幼穂長を確認し，生育ステージを把握しておくことが重要である。

3 今後の管理

(1) 出穂後の水管理【7/19 発表 令和5年度 宮城県米づくり推進本部情報 第1号より】

① 低温時の水管理

- ・幼穂形成期から減数分裂期にかけて日平均気温 20℃以下、または日最低気温 17℃以下が続く場合は、早急に深水管理を行う。

- イ 幼穂形成期（幼穂長 1～2mm）：幼穂の伸長にあわせ段階的に水深を 5～10cm 程度とする。
- ロ 減数分裂期（幼穂長 3～12cm）：できる限りの深水管理を実施する（水深 20cm が望ましい）。

② 出穂後高温時の水管理

イ 走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ保水管理

出穂後の水管理を保水管理で維持することにより、昼間深水・夜間落水管理ほどの効果は得られないが、湛水管理に比べれば「乳白粒」や「胴割粒」の発生が軽減できる。

ロ 昼間深水・夜間落水管理（用水が確保できる場合）

晴天等の高温時において昼間はできるだけ深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする水管理方法である。一日の用水温の推移をみると、気温よりも数時間遅れて水温の低下がみられるので、午前 9～10 時頃に灌漑し、気温が用水温を下回り始める午後 4 時頃に落水するのが望ましい。

(2) 病虫害防除（宮城県病虫害防除所）

① いもち病

- ・BLASTAMによる感染好適条件の推定結果では、7月中旬以降も、感染好適条件が県内の各地で出現している（●が感染好適条件）。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
7/9	△	●	●	●	●	●	●	●	●	—	●	—	—	—	—	●	—	—
7/10	—	—	—	—	—	—	—	●	—	●	●	—	—	—	—	—	—	—
7/11	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	?	—	—	●	—	—
7/12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/15	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	○	—	○	○	○	○
7/16	●	●	●	○	○	○	—	●	●	—	—	—	○	—	—	●	—	○
7/17	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—
7/18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/19	●	●	●	○	○	○	○	—	○	○	○	—	—	—	○	○	○	—
7/20	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- ・防除所の「発生予報第7号」によれば、穂いもちの「発生時期」は「平年よりやや早い8月第3半旬」で、「発生量」は平年並みと予報されている。
- ・穂いもちの予防粒剤は、出穂 30～5 日前に使用する剤が多いので、幼穂長の観察や出穂期の予測に基づき、適期に散布する。

② 斑点米カメムシ対策

- ・ 定点調査の結果、アスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期は7月第3半旬であり、平年（7月第5半旬）より早かった。
- ・ 7月中旬の巡回調査によれば、アスジカスミカメ成虫の「発生地点率」は平年よりやや高く、「すくいとり虫数」は平年より多かった。同様に、（大型の）クモヘリカメムシ成虫の「発生地点率」及び「すくいとり虫数」は平年を大きく上回った（下図参照）ことから、防除所では7月24日付けで「注意報第1号」を発表し、適期防除を呼び掛けている。

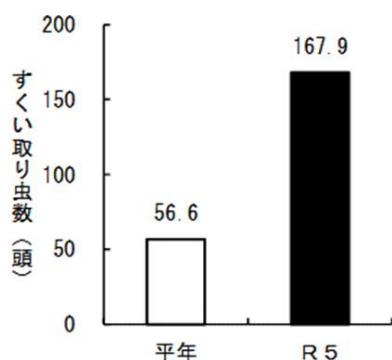


図1 草地におけるアスジカスミカメ成虫のすくいとり虫数(7月中旬)
※イネ科植物が出穂している地点のみ集計

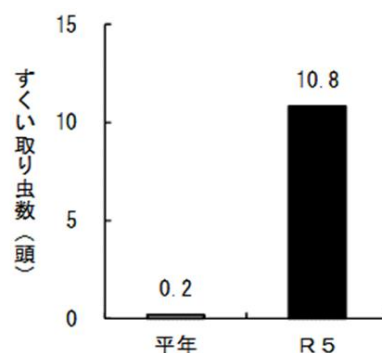


図2 草地におけるクモヘリカメムシ成虫のすくいとり虫数(7月中旬)
※イネ科植物が出穂している地点のみ集計



【アスジカスミカメ】



【アカヒゲホソミドリカスミカメ】



【クモヘリカメムシ】

(画像提供 宮城県病害虫防除所 HP より)

- ・ 本年は、平年より出穂期が早まると予測されているので、発生源となる畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、できる限り早めに草刈りを終了する。
- ・ 薬剤防除は穂揃期とその7~10日後の2回防除が基本である。2回目の薬剤散布以降も斑点米カメムシ類の発生がみられる場合は、追加防除を実施する。
- ・ イヌホタルイが発生した水田で除草ができなかった場合は、1回目の散布時期を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ、被害を軽減できる。
- ・ 大型の「クモヘリカメムシ」は水田に越冬世代成虫が浸入し、その後1世代を経過する。クモヘリカメムシの発生地域（県南部及び沿岸部が多い）で、「つや姫」等の晩生品種を作付けする場合は、被害リスクが高くなる可能性があるため、適期防除を実施する。